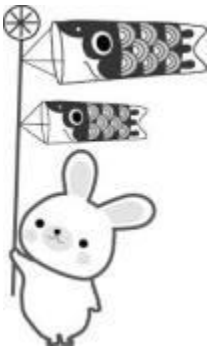
大阪狭山市立南第三小学校　　平成26年4月30日(水)

三小だより　　5月号

心も身体もさわやかに

校長　藤本　賀津雄

鯉のぼりが柔らかい風に揺れるさわやかな季節を迎えました。子どもたちは新しい先生や新しい友達にもだんだん慣れてきたようです。どの子も楽しく元気に生き生きと、学校生活を過ごしてほしいと願っています。



毎朝、校門であいさつをしていると、笑顔で元気にあいさつを返してくれる子どもたちもたくさんいます。互いに笑顔であいさつできた時は、とてもさわやかな気持ちになります。あいさつするというのは、相手に「あなたのことを無視していませんよ」「大切に思っていますよ」というメッセージを送っていることになるのです。あいさつは、相手に心を開くことなのです。あいさつをされた方もした方も、どちらも気持ち良くなります。是非ご家庭でも、家族同士が気持よくあいさつを交わせるようにしてほしいと思います。また、地域の方や保護者の方が子どもたちの見守りをしてくださっていますが、その方たちにも気持のよいあいさつをしてほしいと思います。あいさつを通して、今の季節のように、心も身体もさわやかに行きましょう。

ところで、さわやかさの対極にあるのが陰湿ないじめです。４月８日の始業式のとき、私は南第三小学校ではいじめは絶対許さないということを、実際にあった事例をもとに子どもたちに話しました。極度の弱視(目がほとんど見えない状態)のＡくんが中学一年生のときのことでした。たくさんの上靴の中から自分の上靴を探すために、いろんな上靴を手にとって目に近付けて名前を確認していました。すると、少し離れた場所からそのＡくんの行動を見ていたある女の子が、Ａくんは上靴の匂いをかいでいるのだと勘違いしてしまったのです。近くにいた女の子たちに「ねえねえ、あれ見て。Ａ くん、いろんな人の上靴の匂いかいでるでぇ。きしょっ。」と言いふらしたのです。「何で上靴の匂いなんかかぐん。変態ちゃうん。」って言われたＡ君は、顔を真っ赤にしてうつむいてしまいました。

その日から Ａ 君へのいじめが始まりました。廊下でわざとぶつかったり、すれ違いざまに「きしょっ」とか「きもっ」とか言ったりされました。我慢して頑張っていた Ａ 君もとうとう学校に行けなくなってしまいました。今、大人になった Ａ 君は手記で述べています。あの中一のときに浴びせられた「何で上靴の匂いなんかかぐん。変態ちゃうん。きしょっ。」と言われた言葉が、今でも心に突き刺さったままです。未だにその言葉のとげを抜くことができないのですと。

このような悲しい出来事が二度とあってはなりません。もしいじめを見かけたら、傍観者であってはなりません。先生や親に必ず話してください。それは告げ口と言いません。立派な人権を守る尊い行動なのです。「いじめは絶対許さない」「どの子も楽しく元気に過ごす」そんな三小にみんなでしていきましょう。